

## 自立・就業部会 活動報告書

部会長 宮尾 彰

### 1. 今後の方向性

これまでの討議の文脈を踏まえた上で、新規部会員による知見を取り入れながら本部会の方向性を見定めて行く。特に、次世代支援係が主管する「発達障がいサポート・マネージャー配置事業」と「長野県子ども・若者サポートネット事業」の両者の有機的な協働関係を目指す。

今年度の討議の成果として掲げる方向性のポイントを以下に箇条書きで列記する。

#### ①「居場所」づくり

発達障がいサポート・マネージャーと子ども・若者サポートネット事務局との意見交換の成果を反映した「居場所」運営の模索。

#### ②就労支援

ジョブコーチ制度の再評価を含めた「困難を有する求職者層（障害者・氷河期世代・長期的無業者等）」対象の支援体制構築の模索。

#### ③司法関係部局との連携

法務省管轄の支援関係者との情報交換・意見交換の機会づくり

### 2. 来年度取り組むべきこと

来年度の部会運営の柱に「当事者の主体性を取り入れた支援の仕組みづくり」という視点を掲げながら、従来の支援関係者による支援のパッケージを見直す作業に着手する。上記の3ポイントの各々について、「当事者からの視点」を導入しながら施策提言につながる討議を重ねる。

来年度の取り組みの実務レベルでのテーマを以下に箇条書きで列記する。

#### ①県内全域の「居場所」の実態把握

県内で「居場所」を標榜して運営されている社会資源の（現地視察を含む）リサーチ

#### ②グレーゾーン層への就労支援についての意見交換

「障がい者就業・生活支援センター」と「若者サポートステーション」に重なる支援ニーズへの対応について共通の目標設定を得るための意見交換

#### ③『司法の視点から捉えた発達障害』の学習会

司法関係者を招いての協働討議による職務領域を超えた基本的なマインドセットの共有化